

R 労災かわらばん

一初春号一

Vol.25 発行日/平成21年1月31日 編集/釧路労災病院新聞局

新年のご挨拶 Change, Yes We Can.



釧路労災病院
院長
小柳 知彦

明けましてお目出度うございます。

昨年を代表する文字は「変」との事です。「Change」＝変革をスローガンにかかげたオバマ氏が黒人と云う人種差別の壁を越えて次期米国大統領に選ばれた事とも無関係ではない様です。9/11に始まる対テロ戦略、イラク戦争、ハリケーンカトリナ被害等の危機を通じてリーダーとしての資質に欠けるブッシュからの変革を求めたアメリカ国民の選択であった筈です。サブプライムローンに端を発したウォール街金融危機が一気に世界中を巻き込んで景気後退、経済低迷が世界的にも広まる中その立て直しに期待する面もあるでしょう。

ひるがえって我が国では3人も首相は変われど、この数年間同じ政権のたらい廻しが続き変化に乏しい状態です。地域医療崩壊が叫ばれて久しいですが改善のきざしは一向に見られません。医師の資質に問題があるとする一国の首相の発言にはあきれざるばかりです。医学部卒業生が研修先を自由に選べる卒後臨床研修制度が条件にめぐる首都圏への医師の集中、大学医局の医師不足、地方勤務医の大学への呼び戻し、地域医療担い手の地方医師不足へと連なり、都市部と地方との医療

格差を生じる様になって久しい所です。選択の自由は将来の医療を担う若者にとって大事な事だと思いますが一方で、「自由」の名のもとに地方での医師不足を招き、地域医療崩壊の一因となっている現在の研修制度は何らかの見直しが必要です。先の金融危機も市場原理、規制緩和、自由主義経済の名のもとに押し進められてきたThatcherism・Reaganomicsとされる政策が破綻した結果とされ、政府・公的機関による管理、統制の必要性が認識されつつあります。これ以上の地域医療の崩壊を来さない為にも自由放任ではなく一定の期間研修医の地方勤務を義務付ける等、国の施策として管理・規制・監督を取り入れた自由選択であるべきでないかと考えます。

医師会立病院の閉院など釧路市の医療情勢はきびしくなるばかりです。そんな中、釧路労災病院は日赤病院など他医療機関との連携を強めて地域医療を堅持すべく定期的に協議を始めた所でもあり、また、道の推薦を受けてがん診療地域拠点病院としての申請を終えた所です。

このかわら版が皆さんの手元に届く頃には厚生労働省の委員会審議を経て釧根地区2番目の拠点病院として正式に認可されているものと思います。良い意味での変革がある事を、そしてこの大きな潮流を生み出したオバマ氏のもう一つのキーワード「Yes We Can」を胸に秘めながら職員一同新しい年に向かって行きますのでよろしくお願い致します。

「乳がん看護認定看護師



乳がん看護認定看護師
森 美代子

役割

乳がんは女性のがん罹患率のトップであり30代から50代の働き盛りの年代に最も多く発症する病気です。この年代の女性の役割は大きく、社会問題としても取り上げられています。そこで、2005年から乳がんを早期に発見し、乳がん患者さんへの専門的ケアの必要性が問われ、乳がん看護認定看護師が誕生しました。少し長くお堅いイメージの名称ですが、乳がん看護認定看護師の役割について紹介します。

私は現在8階東病棟で病棟師長をしながら、外科外来での乳がん患者さんの相談やリンパ浮腫予防外来を行っています。病棟では、乳がん患者さんの手術前後のケアを中心に、入院から退院まで安心して治療が受けられるようサポートしています。

乳がん治療の選択肢は多く、乳がんと診断された段階から患者さんご自身の生活と価値観を基に手術方式を決定しなければなりません。外科外来においては、乳がんの診断を受けた方への心理的サポートや乳腺外来での身近な相談者として要請があればどこでも出向きます。また、昨年12月より、乳がん術後のリンパ浮腫予防を開設し、毎週月・木の午前中に予約制で相談に応じています。乳がんは唯一患者さん自身が発見できる病気です。

しかし、現在の乳がん医療は、しこりになる前に乳がんを早期に発見しようという流れに変化しています。そのため、30歳過ぎたら自己検診とマンモグラフィによる乳がん健診を声を大にしてお勧めします。道東地域では初の乳がん看護認定看護師として、その活動は動き出したばかりですが、常に地域の皆様や患者様が最高の医療が受けられるようにサポートします。

どうぞ、お気軽にお声をかけて下さい。そして、気がかりな方は、まずは乳がん健診を受けられるようお願い致します。